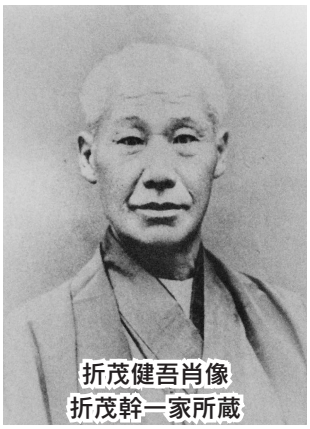
多野藤岡地域の人々が支えた高山社

高山社草創期を支えた人　折茂健吾

折茂健吾の幅広い人脈

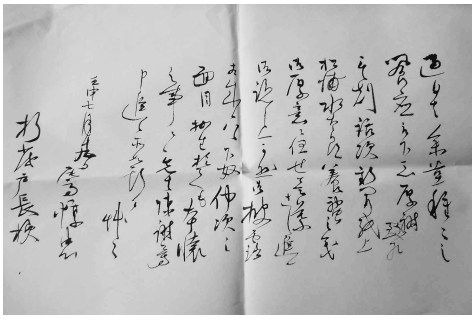
折茂健吾は文政12（1829）年、甘楽郡羽沢村（現南牧村）の名家に生まれ、嘉永3（1850）年に親戚の緑野郡上大塚村（現藤岡市上大塚）折茂林之助の養子に迎えられました。安政4（1857）年には林之助の孫娘コトと結婚、分家独立し養父から養蚕・蚕種製造の家業を受け継ぎました。

健吾は地方行政に半生をささげた人で、嘉永5年23歳で名主見習になったのを皮切りに、明治11（1878）年、緑野・多胡・南甘楽の初代郡長（3郡兼務で94町村を管轄）となりました。同19（1886）年8月に57歳で退任するまで35年間にわたり要職を歴任し、多野藤岡地域の近代行政の基礎を確立しました。今でも折茂家には、富岡製糸場の初代場長 尾高惇忠からの手紙が残されるなど、蚕糸業界幹部との交流や、地域社会・経済の発展に尽力したことを物語る資料が数多く保存されています。


折茂健吾肖像
折茂幹一家所蔵

高山長五郎との絆

健吾は嘉永元（1848）年18歳で名主となった、1歳年下の高山長五郎とは若手名主仲間でした。明治12（1879）年から同15年までは、長五郎が折茂郡長の管轄下、高山村・三本木村・東平井村の、三村連合戸長を務めるという関係でした。長五郎の弟藤太郎が上大塚村の折茂一系に婿入りしており、折茂家と高山家は縁戚関係にありました。


富岡製糸場初代場長
尾高惇忠からの書状
折茂幹一家所蔵

健吾は郡長退任にあたり真野節新郡長へ「…高山村ニ高山長五郎ナル者アリ。多年蚕業ニ熱心シ頗ル得ル所アリ…」と引き継ぎました。それは同19年12月長五郎が56歳で亡くなるわずか4カ月前のことであり、二人は同時代に活躍した指導者で盟友関係にありました。

上大塚と高山社の連携

健吾の住む上大塚村と高山社は、他の地区には見られないほど密接な関係にありました。例えば①明治12年上大塚を中心に展開した組合製糸「緑野精糸社」に、繭質向上を目指す長五郎の製糸改良高山組が加盟。②明治15年上大塚の蚕種家佐藤鹿蔵が中心となり、437人の署名を集め高山社設立に貢献。③上大塚村には高山社分教場が、新町の11カ所に次ぐ多さの10カ所開設されました。

健吾は高山社を陰から支える功労者の一人であったと言えますが、惜しくも明治25年3月64歳で生涯を閉じました。

問い合わせ　文化財保護課（☎㉓5997）